



大人の 社会学 見学

鹿屋の地で育まれた
名品・名産・名所などの
よかもんをご紹介します

ひえだ 日枝神社



輝北町市成1846-1



ナビゲーター

鹿屋市
文化財保護審議会委員
うたまる ちとし
歌丸 千敏さん

本市は第1次産業を基幹産業としており、全国でも有数な食糧供給基地として着実に発展を続けています。特に畜産業は盛んで、牛・豚の産出額は、全国2位。黒牛・黒豚の生産も県下で1位を誇っています。

今回は、この畜産業が盛んな地域ならではの「牛馬の神」を祀った輝北町市成にある日枝神社を訪ねてみました。ナビゲーターは、輝北町在住で文化財保護審議会委員の歌丸千敏さん（91歳）。神社の歴史について



詳しく説明してもらいました。

日枝神社は「山王さん」の愛称で輝北町内はもとより、周辺地域の人々にも厚く信仰されています。長祿2年（1458年）藩主肝付兼忠（高山城主）と藩主肝付兼秀（市成城主との説あり）により建立されたのが始まりで、その後109年を経た永祿10年（1567年）3月に、肝付左馬守が再興し、明治6年に現在の場所に移転しました。

神社の広場は昔から武士の乗馬の鍛錬場や馬のせり市場など、畜産振興の場として広く利

用されていたほか、例祭については4月の申の日（現在は4月第2日曜日）に挙行されます。祭りの当日は、大隅半島一円から多くの畜産業の方々が家畜安全の祈願のため参拝されるとともに、商工会主催の畜産まつりも開催されます。祭りでは歌や踊りなどのステージショーのほか、祭り一番の目玉である血統書付きの子牛1頭を射止める抽選会も行われ、毎年、2千人を超える人でにぎわいます。

このほか、神社の境内には、明治・大正・昭和の天皇陛下崩御の折に植樹された3本の楠の木があります。これは市成地区の皆さんの奥ゆかしさの表れ。このことも知って欲しいですね！と話されました。

今年の春の例祭は4月12日（日）に開催されます。ご家族、ご友人とともに、日枝神社へ、出掛けてみませんか。